



—東地中海地域ニュース—

トルコ：エルドアン首相のギリシャ訪問

(5月16-17日付現地紙)

16-17日付現地紙は、エルドアン首相のギリシャ訪問について報じている。概要は以下のとおり。

1. 訪問概要：

5月14日、エルドアン首相はギリシャを訪問し、パパンドレウ首相と会談した。また、両首相は共同閣僚会議を開催し共同議長を務めた。エルドアン首相のギリシャ訪問は2004年以来6年ぶりとなる。

エルドアン首相にはババジャン副首相、ダーヴトオウル外相ら10閣僚と、政府関係者、100名以上のビジネスマン、および60名の報道関係者を含む320名が同行した。

2. 共同閣僚会議：

両国閣僚は、共同閣僚会議でエネルギー協力、森林保護、不法移民対策、中国人観光客の共同誘致促進、トルコ・ギリシャ・イタリアを結ぶ天然ガス・パイプライン（ITGI）の促進、公用旅券を対象とする査証免除、防衛協議（軍事費の相互削減を目指す）等、22の合意文書に署名した。さらに、両国間で定期首脳・閣僚級会合（ハイレベル協力議会）を開催することに合意した。

3. 14日、両首相は共同記者会見にて概要以下を述べた。

(1) パパンドレウ・ギリシャ首相

- ①自分は本日の画期的かつ勇気ある一歩が結果をもたらすことを楽観視している。なぜなら、我々の確固たる決意があるからである。
- ②我々は、トルコに近接する多くの島々を有しており、キプロスの経験もあるため、トルコに対して恐怖感を有していた。残念ながら、もしトルコがギリシャの島を支配しようと決意したらどうするかといった恐怖があった。しかし、トルコもギリシャが攻撃するかもしれないという恐怖を有していたものと思う。
- ③ギリシャはトルコに対し、ギリシャ戦闘機との摩擦を回避するため、エーゲ海海上を航行するトルコ軍用機の飛行計画を提出するよう求める。
- ④署名された合意の数及び内容は、今回の訪問が歴史的なものであるということを示唆している。

(2) エルドアン首相

- ①トルコ国内でギリシャ正教神学校が再開されると楽観視している（注：1971年、宗教教育の国家管理に関する法律により、イスタンブール近郊のヘイベリアダ島の神学校の生徒募集が停止され、1981年に閉鎖されている）。
- ②トルコはギリシャに対し、トラキア地方におけるイスラム教徒の自由を強化し、アテネのモスクを修復するよう望む。
- ③両国の貿易額が62億5,000万米ドルまで増加することを期待する（注：2009年は26億米ドル、2008年は34億米ドル）。

両国は多額の防衛予算を組んでいる。我々は防衛支出を減らし、他の目的に支出するべきである。